

2016 北東アジア自治体環境専門家会合とやま宣言

— 2016 北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま —

我々、北東アジア地域の経済界、学界及び地方自治体からの会議参加者は、2016年5月23日、日本国富山県において集まり「北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま」を通じて、北東アジア地域で取り組まれてきた国際環境協力事業が大きな成果を収めており、今後も世界共通の課題となっている地球環境問題などの解決や北東アジア地域の豊かな環境を将来の世代に引き継ぐために協力することの重要性を認識し、環境保全に連携して取り組んでいくことを宣言する。

1 共通認識

我々は、以下のことを共通認識として確認した。

- (1) 我々は、2007年12月、第9回日中韓三カ国環境大臣会合(開催地；富山県)に併せて開催した「北東アジア環境パートナーズフォーラム in とやま」において採択した「北東アジア環境パートナーシップとやま宣言」に基づき「広域的な環境モニタリング体制及びネットワークの構築」、「環境保全のための技術情報の共有」、「国際環境協力を担う人材の育成」に関連する国際環境協力事業に積極的に取り組み、大きな成果を収めていることを認識した。
- (2) 我々は、2016年5月15日及び16日に日本国富山県で開催された「G7富山環境大臣会合」において、気候変動、生物多様性、海洋ごみなどの地球環境問題への対応をはじめ、都市の果たし得る役割の重要性が高まってきていることが再確認されたことなどを踏まえ、中央政府レベルによる対策だけでなく地方や自治体レベルでも取り組む必要があることを認識した。
- (3) 我々は、北東アジア地域が、人口や経済の面から全世界の大きな部分を占め、地球環境への負荷の削減について大きな責任を有していることを確認した。また、北東アジア地域の豊かな環境資源を将来の世代に引き継ぎ、持続可能な社会を実現するためには、国境を越えて、様々な立場の人々が環境保全の重要性を理解し、互いに手を携えて行動していくことが必要であることを認識した。

2 個別的事項

我々は、上記の共通認識に基づき、自らが参加し得る範囲において、次の取組みを進める。

(1) 地球環境問題への積極的な貢献

気候変動など地球規模の問題について、北東アジア地域における影響を把握するとともに、それぞれの地域で活動している環境保全の手法や各々が保有している有益な情報・データを共有化するよう努める。

- a 気候変動、生物多様性については、地方自治体、研究機関などが連携し、海岸における生息生物の分布や気候変動の影響に敏感な海岸生物を指標生物とした生息状況を調査し、北東アジアにおける実態把握に努める。
- b 海洋ごみについては、その実態を把握するため、北東アジア地域の地方自治体などが連携して、海岸漂着物を今後も調査する。また、G7富山環境大臣会合で採択された「富山物質循環フレームワーク」の3R促進の観点からも、それぞれの地域においてごみの発生抑制などの取組みを推進する。特に、生態系などへの影響が懸念されるマイクロプラスチック問題に対処するためにも、レジ袋、トレイ、ペットボトルなどの発生抑制と回収・リサイクルに努める。さらに、水質汚濁についてもそれぞれの地域において実態把握を行い、水環境保全に努める。
- c 黄砂・自動車排出ガスなどの大気汚染や森づくりなどの自然環境の保全については、北東アジア地域の各地方自治体で課題となっており共通する課題である。今後もそれぞれの地域において調査を行うなど実態把握等に努めるとともに、改善に向けて技術協力を進める。

(2) 市民協働、環境教育の推進

グローバルな視点で地域の環境保全活動をリードできる人材の育成を目指し、地域の市民との協働で活動を進めるとともに、将来の世代の育成に努める。

- a 気候変動、生物多様性、海洋ごみなどの調査や海岸清掃、森づくりなどの環境保全活動は、市民との協働事業として実施し、市民の一層の参加を促すとともに、青少年や子どもたちの環境教育にも活用する。
- b 北東アジア地域の環境保全活動の主体となるリーダーを育成するため、青少年を対象に、環境問題に関するディスカッション、市民と連携した環境保全に関する取組みを体験する交流プログラムなどを実施する。
- c 大学などの研究機関において、社会科学、自然科学などの観点から進められている環境負荷を低減するための研究や技術開発を進め、社会に還元するとともに、環境保全に寄与する人材の育成に努める。

(3) 国際的な対話の推進

地球規模の環境問題という共通の課題に対し、北東アジア地域において先導的な役割を果たすため、グローバルパートナーシップのもと、今後も対話を継続するよう努める。

- a 環境保全をテーマとした国際フォーラム等については、ロシア沿海地方で「国境のない自然」や日本富山県で海洋ごみや生物多様性に関する北東アジア地域の関係機関会議などが実施されており、環境保全技術などに関して、今後も意見交換等を進める。
- b 北東アジア地域で実施されている人工衛星によるリモートセンシング技術を活用した水質や藻場の調査など新たな環境調査手法や先進的な環境施策などに関する情報交換を進め、ホームページなどで世界に積極的に発信する。
- c 北東アジア地域自治体連合環境分科委員会を活用するなど、環境保全対策を進めるための政策対話を継続し、北東アジア地域での環境対策に関するイニシアティブを発揮するとともに、この宣言の実施状況について定期的に確認していくこととする。

この会合を契機に、北東アジア地域の先駆的な取組みの輪が世界中に拡がり、地球上のすべての人々が地球環境と調和しながら健康で豊かな暮らしを送り続けていくことを期待する。

2016年5月23日

「2016 北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま」会議参加者一同